

平成 29 年 6 月 22 日

東区医療介護ネットワーク協議会

嚥下調整食統一プロジェクト会議参加者様

東区医療介護ネットワーク協議会
事務局 勤医協中央病院 古田陽介

第 2 回 東区内の病院・介護施設 嚥下食統一化プロジェクト会議のご案内

先日は、嚥下調整食統一プロジェクト会議にご参加いただきありがとうございました。

次回会議を下記のとおり開催いたしますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

また、開催にあたり、前回の会議で検討事項となった内容についてアンケートを作成しましたので、ご協力をお願いいたします。

記

1. 日 時 : 2017 年 8 月 1 日 (火) 18:30~20:00
2. 場 所 : 勤医協中央病院 2 階 みなくる A
3. アンケート締切り : 2017 年 7 月 25 日 (火)

※下記メールまでご返信ください。

勤医協中央病院連携課 白幡 renkeisitu@kin-ikyoku-chuo.jp

【アンケート】

1. 「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013」に合わせた分類表作成について
各病院で嚥下調整食を提供されているかと思いますが、それは「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013」の「学会分類 2013 (食事)」「学会分類 2013 (とろみ)」のどのコードに分類されるのか、事務局で集約しようと考えております。

アンケート回答用紙の「学会分類 2013 (食事)」「学会分類 2013 (とろみ)」欄に、貴院・貴施設での名称をご記入ください。画像の添付は可能な場合をお願いします (強制ではありません)。

2. 問い合わせ窓口について

嚥下調整食について、転院・退院・退所後の問い合わせ窓口を、アンケート回答用紙の「問い合わせ窓口」欄にご記入ください。

3. 老人保健施設の皆様へ

病院からの入所について、受け入れの際によかったこと、困ったこと、このようになれば望ましいと思うことなどご意見があれば、アンケート回答用紙の「老健」欄にご記入ください。

4. 看護添書・リハ添書について

看護添書・リハ (ST) 添書で記載内容が異なったなどの課題がありました。各病院の特徴などを確認するため、可能であれば、次回会議にご持参ください (強制ではありません)。

以 上

東区 病院・施設嚥下調整食提供内容

学会分類2013(食事)

施設名 ○○○

コード	形態	目的・特色	名称 ①	名称 ②	画像 ①	画像 ②
0j	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの	重度の症例に対する評価・訓練用少量をすくってそのまま丸呑み可能残留した場合にも吸引が容易たんぱく質含有量が少ない				
0t	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したとろみ水(原則的には、中間のとろみあるいは濃いとろみのどちらかが適している)	重度の症例に対する評価・訓練用少量ずつ飲むことを想定ゼリー丸呑みで誤嚥したりゼリーが口中で溶けてしまう場合たんぱく質含有量が少ない				
1j	均質で、付着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの	口腔外で既に適切な食塊状となっている(少量をすくってそのまま丸呑み可能)送り込む際に多少意識して口蓋に舌を押しつける必要がある0jに比し表面のざらつきあり				
2-1	ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいものスプーンですくって食べることが可能なもの	口腔内の簡単な操作で食塊状となるもの(咽頭では残留、誤嚥をしにくいように配慮したもの)	例:ミキサー食	例:やわらか食		
2-2	ピューレ・ペースト・ミキサー食などで、べたつかず、まとまりやすいもので不均質なものも含むスプーンですくって食べることが可能なもの	口腔内の簡単な操作で食塊状となるもの(咽頭では残留、誤嚥をしにくいように配慮したもの)				
3	形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの多量の離水がない	舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの 押しつぶしや送り込みの口腔操作を要し(あるいはそれらの機能を賦活し)、かつ誤嚥のリスク軽減に配慮がなされているもの				
4	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの箸やスプーンで切れるやわらかさ	誤嚥と窒息のリスクを配慮して素材と調理方法を選んだもの 歯がなくても対応可能だが、上下の歯槽提間で押しつぶすあるいはすりつぶすことが必要で舌と口蓋間で押しつぶすことは困難				

記載方法

○○病院・施設のところへ自院所名の記載をお願いします。
コードのところへ各病院・施設で現状表記しているものが嚥下調整食分類のどこにあたるかの記載をお願いします。

学会分類2013(とろみ)

段階	性状(飲んだ時)	性状(見たとき)	〇〇病院、施設		
			とろみ比率	とろみの表現方法	とろみ剤(商品名)
段階1 薄いとろみ Ⅲ-3項	「drink」という表現が適切なとろみの程度口に入れると口腔内に広がる液体の種類・味や温度によっては、とろみが付いていることがあまり気にならない場合もある飲み込む際に大きな力を要しないストローで容易に吸うことができる	スプーンを傾けるとすっと流れ落ちる フォークの歯の間から素早く流れ落ちる カップを傾け、流れ出た後には、うっすらと跡が残る程度の付着			
段階2 中間のとろみ Ⅲ-2項	明らかにとろみがあることを感じがありかつ、「drink」という表現が適切なとろみの程度口腔内での動態はゆっくりですぐには広がらない舌の上でまとめやすいストローで吸うのは抵抗がある	スプーンを傾けるととろとろと流れる フォークの歯の間からゆっくりと流れ落ちる カップを傾け、流れ出た後には、全体にコーティングしたように付着			
段階3 濃いとろみ Ⅲ-4項	明らかにとろみが付いていて、まとまりがよい送り込むのに力が必要スプーンで「eat」という表現が適切なとろみの程度ストローで吸うことは困難	スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい フォークの歯の間から流れ出ない カップを傾けても流れ出ない(ゆっくりと塊となって落ちる)			

例	例	例
300:1	ポタージュ	トロメイク
200:1	状	つるりんこ
	等	等
	ケチャップ	

問い合わせ窓口

部署	担当者	対応可能時間	連絡先
		～	
		～	
		～	

例) 栄養科
病棟
言語聴覚士
MSW

鈴木
師長

14:00 ～ 16:00
10:00 ～ 17:00

123-4567
123-4568 内線1234

病院からの入所について

1.受け入れの際によかったこと

2.受け入れの際に困ったこと

3.このようになれば望ましいと思うこと

4.その他